

自尊心傷つけないで

最近、少子化になっていることもあって、子どもたちの「HIN」の問題がクローズアップされています。中でも注意欠陥多動性障害（ADHD）という、子どもの時に見られる脳の発達障害に注目が集まっています。

ADHDが起こる原因は分かっていませんが、脳の神経伝導物質であるドーパミン等が不足することによって起こると考えられています。集中力が続かない「不注意」、落ち着きがない「多動性」、思いついた行動を取ってしまう「衝動性」という三つが特徴的な症状です。しかし、これらの症状があつても日常生活

注意欠陥多動性障害



福井大病院 子どものこころ診療部
友田 明美教授

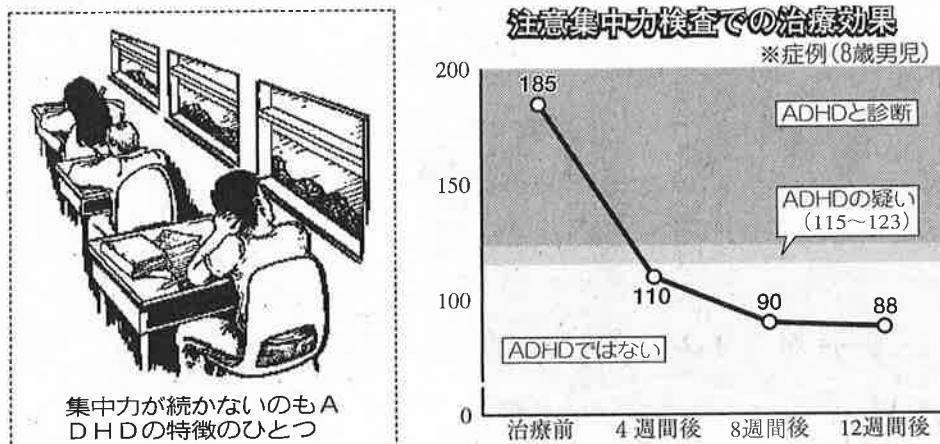
A D H D では集中力が続かない、忘れっぽい、落ち着きがないと言った特性が現れます。こうした行動は子どもなら誰にでも見られるため、周囲から「障害」という認識を持つてもらえない事があります。

A D H D は発達障害であり、しつけが悪いことはまったく関係はありません。しかし、こうした子どもたちは否定的な評価を受けやすいため、自信を無くしてしまいます。重要なのは周囲の理解や適切なサポートです。子どもたちの明るい未来の為にも、A D H D を正しく理解してください。

現在、子どもの十人に一人はA D H D の特性を持つているとされます。そして、その

ADHDは発達障害であり、しつけが悪いことはまったく関係はありません。しかし、こうした子どもたちは否定的な評価を受けやすいため、自信を無くしてしまってあります。重要なのは周囲の理解や適切なサポートです。子どもたちの明るい未来

ADHDでは集中力が統か
ない、忘れっぽい、落ち着き
がないと言った特性が現れます。
こうした行動は子どもなら誰にでも見られるため、周
囲から「障害」という認識を
持つてもらえない事がありま
す。



「落ち着きがない」というADHDの特徴も、言い換えれば「元気がよい」「周りを常に見ている」「遊びごころがある」とも言えます。歴史

適切な治療を受け
る事が大切です。
現在の治療法と
しては、社会心理
学的な治療と、ド
ーパミン等の神経
伝達をスムーズに
させる薬による治
療が行われていま
す。どちらも子ども
もたちが充実した
生活を送ることが
できるようになります。
事を目的としてい

事は周囲の理解ですので、子どもたちを明るく良い方向に育てていくためにもADHDへの正しい理解を持つことが大切です。しかし症状が重く、学校や家庭で問題行動が多くなれば治療が必要となります。その治療効果は、パソコンを使った四つの検査を基に出了した、注意集中力検査の指數で客観的にみることもできるようになりました。

事は周囲の理解ですので、子どもたちを明るく良い方向に育てていくためにもADHDへの正しい理解を持つことが大切です。しかし症状が重く、学校や家庭で問題行動が多く、治療が必要となります。その治療効果は、パソコンを使った四つの検査を基に出した、注意集中力検査の指數で客観的にみることもできるようになりました。

福井大病院子どものこころ診療部は、子どものこころの問題の診断・治療を専門とする、全国でも数少ない医療機関です。小児科、児童精神科と連携し、発達障害をはじめとした「子どものこころのひづみ」と、それに伴う諸症状を解明する」とことで、「これが危機的な状況にある子どもを救い出し、支援すること」を目指しています。

悩んでいる保護者の皆さんへは、ぜひ、遠慮なく相談にきてください。

悩んでいる保護者の皆さん
は、ぜひ、遠慮なく相談にき
てください。

医療